

2026年度メディカルサイエンスカフェ実施報告

第 1 回	実施日	4月17日(金) 8:40~9:40
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	黒田 啓介先生 名古屋大学大学院医学系研究科卓越大学院・医学研究者養成推進室 准教授 「論文の読み方セミナー」
	参加者数	54人
	参加学生の声	・そもそも論文が間違っているかもしれないという事実にはきづかされて、科学的に考える時は常に懐疑的な姿勢で捉えることの重要性を学んだ。英語で論文を書く際に、パラグラフごとに時制が決まっているのが興味深かった。
第 2 回	実施日	5月1日(金) 8:40~9:40
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	松尾 恵太郎先生 愛知県がんセンター研究所 副所長／がん予防研究分野 分野長 「がんを疫学する ― 未来のがん患者さんを減らす研究」
	参加者数	29人
	参加学生の声	・サプリメントと医薬品の理屈、すごく納得しました。家族にも話したいです。 ・癌の予防法の5+1について、健康であるためにすべきこととしてよくあることのように感じたが、それを実践するだけで約40%も癌のリスクが低下するというのが印象に残った。
第 3 回	実施日	5月8日(金) 9:20~10:50
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	勝野 雅央先生 名古屋大学医学部長・大学院医学系研究科神経内科学 教授 「基礎研究と臨床研究：何が違う？それぞれの魅力とは？」
	参加者数	30人
	参加学生の声	・早期治療を目指すために、健康診断データを参照してクレアチニンの値が低下していることを見出したところで胸が躍りました。とても楽しかったです。 ・将来、研究が進んだら、全ての遺伝子疾患において超早期に発見・治療することのできる世界も実現可能なのかもしれないと思いつくワクワクしました
第 4 回	実施日	5月15日(金) 8:40~9:40
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	久保田 晋平先生 名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病理学 特任講師 「生命システムの制御を目指して」 神田 容先生 名古屋大学 環境医学研究所 分子代謝医学分野／日本学術振興会 特別研究員 「将来を描くときに知ってほしい研究の世界」
	参加者数	27人
	参加学生の声	・ライフイベントについての話が印象に残った。色々考えていたが、神田先生が気にしすぎなくていいとお話されていて、もっと前向きに色々なことに挑戦してみたいと思った。 ・入りたい研究室を見つけるために自分から行動することが大事だとわかった。お金のことを聞けて良かった。
第 5 回	実施日	5月22日(金) 8:40~9:40
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	今泉 貴広先生 名古屋大学大学院医学系研究科臨床研究教育学 講師 「諦めない力は自分でつくれる-医師としての体験とGritの話」
	参加者数	23人
	参加学生の声	・これから生きていくうえでGRITは非常に強力な武器になると思うので、高められるような様々な経験をしていく活力をもらえました。 ・臨床研究の醍醐味を知るとともに、学生時代の自己の在り方について考えさせられる講演だった。

第 6 回	実施日	5月29日(金) 8:40~9:40
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	小澤 慶先生 Helmholtz Zentrum München Postdoctoral Researcher 「基礎研究という選択と、その後の日常」 前田 勇貴先生 名古屋大学 卓越大学院・医学研究者養成推進室 特任助教／ Helmholtz Zentrum München Postdoctoral Researcher 「診る前に見る“べき”世界がある」
	参加者数	22人
	参加学生の声	・前田先生はこれまでの先生と同様に人や雰囲気です研究室を選んでいたが、小澤先生はこれまでの先生とは違い、アクティビティーな体育会系の研究室を選んだとお話しされていて、それがとても印象的だったし、学ぶ身として、短時間で多くの経験を積める環境は確かにとてもいいなと思った。 ・お二人とも楽しそうにされていて留学への興味が増しました。英会話もディスカッションもきちんとできるようにしたいと思います。
第 7 回	実施日	6月5日(金) 8:40~9:40
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	仲矢 道雄先生 名古屋大学 環境医学研究所 疾患制御学分野 教授 「研究を嗜もう！」
	参加者数	24人
	参加学生の声	・医学部以外の方も医療の研究しているということは知っていたが、実際にどのような経路で医療研究にたどりついたのかということを知れてよかった。 ・医学部、理学部から医学研究をするときにはそれぞれのメリットとデメリットがあるとわかったので、協同していくことが大切だと感じた。
第 8 回	実施日	7月3日(金) 9:20~10:50
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	深谷亮太先生 名古屋大学大学院医学系研究科細胞生理学 助教 「所感」 山本幹泰先生 名古屋大学環境医学研究所 神経系分野 医学博士課程3年 「コロナ禍を契機に進路が臨床医から基礎研究医に変化した一例」 大庭彰展先生 名古屋大学大学院医学系研究科細胞生理学 博士課程3年 「冬眠・休眠からの覚醒を支える脳のしくみ」 古道万喜先生 名古屋大学大学院医学系研究科細胞生理学 博士課程1年 「私がR2-D1になるまで」
	参加者数	32人
	参加学生の声	・研究室を選ぶときに雰囲気や人を重視したと皆さんおっしゃっていたのが印象的だった。自分もラボツアー後あたりから研究室に所属したいと考えているのでとても参考になった。 ・名古屋大学医学部の卒業生の中でも、年齢が自分と近い方々のお話を聞けて良かったです。大学院への進学について考えるいいきっかけとなりました。
第 9 回	実施日	7月10日(金) 9:20~10:50
	場所	基礎研究棟第4講義室
	講師 演題	島村 司先生 名古屋大学 卓越大学院・医学研究者養成推進室 特任助教／ 大学院医学系研究科細胞生物学 特任助教 「研究医の発生学」 齊木 颯先生 名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞化学 博士課程4年 「(名古屋大学といえば…)糖鎖生物学の世界へようこそ！」
	参加者数	16人
	参加学生の声	・私は高校生物で学んだ発生学に苦手意識を持っていたため、発生学のどのようなところが面白いのか、という話題が非常に印象的でした。 ・お二人の学部時代のエピソードや臨床から研究に戻るまでの過程が興味深かった。